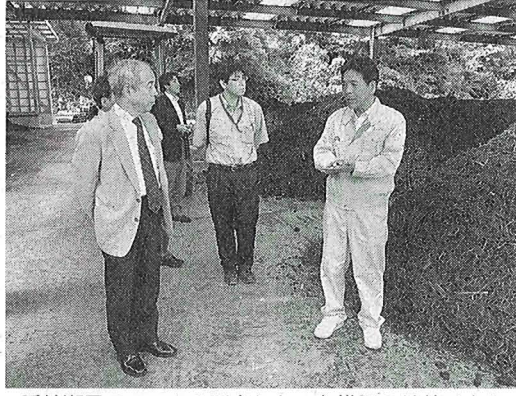


「隠岐牛」をブランド化

飯古建設 島根県



隠岐潮風ファームの原点となった堆肥のリサイクル施設で説明する田仲社長（右）

島根半島の沖合約60キロ、海の上「サマライ」と呼ぶ人口2400人余りの小さな町がある。島根県・隠岐諸島は、隠岐の島町の「島後（しまご）」と、有人3島からなる「島前（とうぜん）」に大別され、海士町は島前の中ノ島に位置する。同町は「平成の大合併」の際、単独で生き残り、道の選択し、町ぐるみで地域再生に取り組む。ここ「隠岐牛」のブランドをつくり上げた建設会社がある。

仲寿夫社長は「地域に農業や林業、水産業があるからこそ、自分の会社は存続する」と考え、町おこしのために農業産産へ参入することを決断した。

2001年に誕生した小泉政権の「聖域なき構造改革」によって都市と地方の格差は広がり、とりわけ過疎地や離島は公共事業削減と地方交付税の抑制で疲弊した。

「公共事業」と「観光」の2K経済で「外貨」を稼いできた海士町も過疎化や高齢化の進展に加え、構造改革のあおりで財政悪化に拍車がかかり、財政再建団体の一歩手前までいった。

飯古建設が04年に構造改革特区の認定を受けて、農業生産法人「隠岐潮風ファーム」を設立したのは、そんな時代背景があった。

だが、田仲社長は、最初から牛を飼おうと考えていたわけではない。初めはリサイクル事業に関心があり「島内で循環型社会を構築したい」と思った。

廃木材を細かく砕いてチ

ツ化し、それを家畜ふん尿と混ぜて発酵させ、堆肥をつくり、できあがった堆肥を耕作農家へ供給する。

実践しようと思いついた。ところが、島内で飼育されている牛の頭数が少ないため、家畜ふん尿が思うように集まらず、良質な堆肥がでなかった。「それならば、いつそのこと、自ら畜産業に参入しよう」と田仲社長は意を決した。

03年春から農業参入の具体的な検討に入り、先進地を視察した。同年11月、地元畜産家の協力を得て繁殖牛を購入し、約5億円を投じて飼育拠点の敷地造成や牛舎・倉庫など関連施設の建設に着手した。

海士町は地域再生のモデルとして全国的に知られる。05年の大胆な財政改革が「海士」の名を一躍有名にした。財政破たんを回避するため、町長、助役、管理職だけでなく、職員

組合までが自主的に給与の減額を申し出た。町長は自ら50%の賃金カットを課した。

一方、島民も老人クラブが補助金を返上したり、バス料金の値上げを認めるなど痛みを分かち合った。

「自分の身を削らない改革は支持されない」という山内道雄町長。単独で生きると決めた同町は給与カットなどで浮いた財源を、地域活性化策の予算に回し「攻め」の生き残りの戦略を展開した。

町役場の産業課を「交流促進課」「地産地消課」「産業創出課」の3課に分割し、夢浦港のフェリーターミナル内に移転。攻めの実行部隊として1年365日の勤務体制に移行した。

同町が進める一点突破型産業振興策は「海潮風塩」をキーワードに、島内のさまざまな地域資源を有効活用することで新産業を創出していくことが狙いだ。

地域建設業の複業化 成功例を見る

首都圏狙った高級路線が奏功

牛の敷わらを求める酪農家と、稲わらを排出する水稲農家を結び付ける「お互いさま」（島内に根付く相互精神）の循環システムを

その中で「隠岐潮風ファーム」は「島生まれ、島育ち、幻の黒毛和牛、隠岐牛」をキャッチコピーに、ブランド化を目指した。「輸送コストがかかる離島のハンデ

イを克服するためには、首都圏を狙った高級化路線が不可欠だった」（田仲社長）

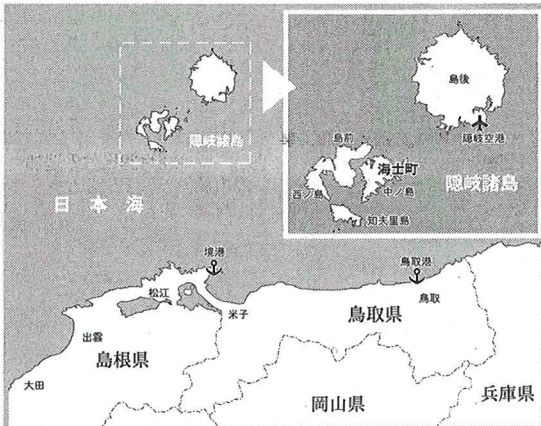
隠岐牛は、潮風が育てたミネラルたっぷりの牧草を食べて成長する。ストレスがなく、心身共に健康な牛だから、病気にかかりにくく肉質も上等になる。

畜産業への参入計画から約3年を経過した06年3月、隠岐牛は初めて東京食肉市場に出荷され、初競りが行われた。そこで「隠岐牛」は、全国の有名銘柄に匹敵するほどの高い評価を受け

札幌市出身の元甲子園球児、青山教士さんは大学卒業後、先輩のソテで海士町にやってきた。現在、町観光協会が働き、同じく「イター

ン」でやってきた大分県出身の女性と一昨年結婚した。このほか、大阪から来た若者が「隠岐潮風ファーム」で農業研修を体験した後、独立して酪農家の道を歩み出した。千しアビを中国へ輸出する会社を起こした若者もいる。

一周間の人たちに支えられたからこそ、今の姿がある。本誌に感謝している」と訥々（じつじつ）と語る田仲社長。真っ黒に日焼けした顔と無私な瞳が印象的だ。「離島のハンディを乗り越えて農業のブランド化を目指す」という夢はかなった。



を売却するためには、首都圏を狙った高級化路線が不可欠だった」（田仲社長）

月12頭の出荷体制を整えている。

島では、飯古建設の農業参入などが起爆剤となり、町ぐるみの地域再生が実を結んでいる。全国各地から「起業」を目指す若者たちが次々と押し寄せ、04年から10年までの7年間に310人、188世帯の「イター」組が島に定住している。

△設立 2004年1月15日
▽従業員 115人
▽資本金 448,000万円
▽経営規模 1 繁殖牛 100頭、肥育牛 290頭、飼料作物 7.5ha、堆肥製造 600t
▽出荷実績 1138頭（2010年）

◆企業×モ
△有限会社隠岐潮風ファーム
▽住所 島根県隠岐郡海士町大字福井387の2
▽社長 田仲寿夫
▽設立 2004年1月15日
▽従業員 115人
▽資本金 448,000万円
▽経営規模 1 繁殖牛 100頭、肥育牛 290頭、飼料作物 7.5ha、堆肥製造 600t
▽出荷実績 1138頭（2010年）